

シリーズ 第72回 人権



優先席とは

公共交通機関には優先席が設置されています。設置された当時は「シルバーシート」と呼ばれ、お年寄りや体の不自由な人に座席を譲るよう表示されていました。では、優先席がなかったら、座席を譲るという認識は持てるでしょうか。

平成11年に関西を走る阪急電鉄が優先席を廃止し、「全座席が優先席」としました。しかしながら、「ただ優先席がない車両」となってしまう、結果として高齢者や体が不自由な人が座席に座ることができなくなったそうです。結局、平成19年には優先席を復活させることになりました。

数日前、久しぶりに電車に乗ったところ、高校生が高齢者に声を掛け、優先席でないにもかかわらず、座席を譲る場面に出会いました。そして、その高校生と隣にいた友人との会話が印象的でした。

「誰でも高齢者になったら、目や耳が不自由になったり、足腰が弱ってきたりして、立っていることがしんどくなるのだから、そういった人に席を譲るのは当たり前だろう」というような内容でした。

そのとき、私は自分が高校生の頃に体験学習で、ゴーグルや耳あて、固定装具を付けて、高齢者の疑似体験をしたことを思い出しました。目や耳の機能が制限され、固定装具により体が重く、うまく歩くことができずに平坦なところでもつまずきそうになりました。ほんの数分程度の疑似体験でしたが、歩行はもちろんのこと立っているのもやっとなりで、非常に疲れてしま

い、高齢者とは想像以上に大変なことだなあと感じました。

少しの勇気があれば、この高校生のように誰でも自分から声を掛けて座席を譲ることはできるのではないのでしょうか。

そして、決められたことだから守るといったことではなく、むしろ、こうした高齢者の皆さんの不安などを理解し、もっと身近に相手を思いやる心、ちょっとした気遣いがあれば、みんなが暮らしやすい社会になるのではないかと思います。

(30代 男性)

人権豆知識

優先席のピクトグラム(図記号)

公共交通機関の優先席の表示は、国土交通省が策定する「バリアフリー整備ガイドライン(車両等編)」で、「優先席の背後の窓や見やすい位置に優先席であることを示すステッカーを貼る等により、優先席であることが車内及び車外から容易に識別できるものとし、一般の乗客の協力が得られやすいようにする」とされ、次の5つのピクトグラムが、国際標準化機構(ISO)で標準化されています。



高齢者 障がい者(けが人) 妊産婦 乳幼児連れ 内部障がい者